美術の窓(91)

# 大和文華館の自然と日本鉄道神社

大和文華館館長　水田　徹

今年もいよいよ秋の特別展が始まり、連日、友の会会員の皆様をはじめ、多くのお客様が「普賢菩薩の絵画」を堪能して下さっております。その際、中門を入ってすぐ左手の木立の中に、新たな施設が出来たのにお気づきのことと存じます。今回はこの新施設についてご紹介いたします。

皆様ご案内の通り、大和文華館の運営母体は近畿日本鉄道株式会社でありますが、その近鉄が創業以来90有余年守り続けてきた「日本鉄道神社」を、この度あやめ池遊園地から遷座奉ったもの、それがこの新施設であります。中央に座するのが日本鉄道神社、その向って右に磐舟稲荷、左手が日本鉄道霊社であります（図1）。そして日本鉄道神社には伊勢大神宮をはじめ熱田神宮、生国魂神社、春日大社、住吉大社など、近鉄ゆかりの七社の御分霊が奉祀され、一方、日本鉄道霊社は生駒トンネル工事の犠牲者をはじめ近鉄創業以来の殉職社員、物故役員などの御霊を祀り、また磐舟稲荷には伏見の稲荷大明神をお祀りしてあります。

さて今回の遷座工事は、設計・施工を近鉄と大林組が担当致しました。大林組は昭和35年に、近畿日本鉄道株式会社創立50周年記念事業としての大和文華館本館の建設を手掛け、また昭和60年の開館25周年には、旧奈良ホテル・ラウンジも移築されましたので、神社本来の方位を守りつつ、これら既設建築とのバランスや全体景観を念頭に置き、またササユリの自生地は避けるなど、設置位置や造作面積にも十分意を尽し、入念に工事を進めて下さいました。

そして去る10月22日午後5時より、正遷座の祭式が生国魂神社宮司斎主のもと無事完了し、今後は年に二度の祭礼と一度の慰霊祭が、近鉄本社役員とご遺族によって執り行われます。

ところで美術館にお出掛けのお客様の中には、以上三神社の大和文華館敷地内への移設に、いささか違和感を抱かれる方も、あるいはおいでのことかと存じます。私自身、この移設話が持ち上がった際、近畿日本鉄道の魂とも言うべき施設の我が美術館敷地内への移設を非常に名誉なことと思う一方、自然の中の美術館という、矢代幸雄初代館長以来遵守されてきた大和文華館設立の理念に、この移設工事はいささか反するのではないか、と一瞬危惧いたしました。

しかしながらその理念を今一度原点に立ち返って繙いてみると、それは杞憂に過ぎないことが判ります。大和文華館の設立趣旨は財団の「寄付行為」（昭和21年）が基本になりますが、さらにその原点は、美術雑誌『大和文華』の創刊号（昭和26年）に寄せた矢代幸雄の一文

「発刊の辞に代えて――種田（おいた）虎雄さんと大和文華館」の中に生き生きと語られています。種田虎雄は言うまでもなく大和文華館創立を発案した近鉄第5代社長であり、矢代幸雄はその実現を託され、後に初代館長となった美術史家です。この一文のうち自然の中の美術館というくだりにはこう記されています。

「（前略）最後に今一つ、大和文華館の性格として、種田さんと私と楽しく話し合ったことは、大和の自然美、ひいてはまた日本の自然美を味はんがために、気持ちのよい設備を作りたいということでありました。一体、芸術美の源は殆どすべて自然美でありますが、自然の研究はいつの間にか科学の領分となって、（中略）自然美を芸術的に、いわば人間的に味わうことから遠ざかってしまいました。（中略）大和の自然美、山川草木、花鳥風月、それ等のうちに、それ等と密接なる関係を持って育った生活芸術、民家や民芸などをよく味わいたいと思っても、どこへ行ったら味わえるのでしょうか。種田さんと私とは、将来の大和文華館の建設を想像して、自然美と芸術美を兼備した、美しい夢を胸に抱いたのでありました。」とし、さらに両氏はそこに吉野の桜や奈良の名高い藤や椿を集め池を配しこれを＜文華苑＞と呼び、「（中略）その文華苑の起伏に従い樹林に見え隠れして、大和造や河内造の古い美しい民家を数軒移築して来るのも、有益であり雅致あるものになりましょう。」と述べています。つまり大和文華館の敷地内に本館以外にも施設を程よく配することは最初から意図されていたのです。

鉄道神社と古民家では意味が違うではないか、とのご指摘もありましょう。しかし矢代氏自身後年「美術品は単に目だけで観賞するものではない。美術は実は人間の心で感じ味わうもので、人間の心は身体全体の調子が良くなければものを敏感に感じ取らない。況や微妙なる美のニュアンスなど感じ取ってくれない。そこで私は美術館を自然の中に置き、心身のよい状態で、精神を込めて美術品を見てもらいたい」（『私の美術遍歴』昭和47年）と記しています。

つまり美術館を自然の中に置くのは、気持ちを整え、安らかな心で美術を味わってもらうためであるというわけです。神社の佇まいに足を止め、あるいはそれに一礼することが人の心を乱し、美術の観賞を阻害するとは到底思われないのであります。

新聞報道などでご存じの通り、大和文華館と文華苑をこよなく愛された本財団理事長金森茂一郎元近鉄会長・社長は、去る10月19日に永眠されました。正遷座が無事執り行われたことを三日違いでご報告できなかったことが悔やまれてなりません。ご冥福を心からお祈り申し上げる次第です。

（図１）

季刊 美のたより №149
平成17年 1 月 5 日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.